



つばさだより

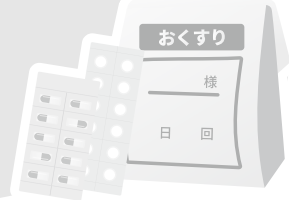
No.285

2018年9月

つばさ薬局 多賀城店	☎022(366)8001	吉川店	☎0229(22)7010
長町店	☎022(308)5711	泉店	☎022(772)1571
船岡店	☎0224(58)1065	若林店	☎022(289)8777
中新田店	☎0229(64)1888	松陽台店	☎022(361)9444
松島店	☎022(353)2990	上杉店	☎022(212)1126
玉川店	☎022(365)2838		

ご自宅にある薬をどのように
保管されていますか？

お薬を有効かつ安全にご使用
していただくには、保管にも注
意が必要です。今回はお薬の保
管方法についてのお話です。



湿気、直射日光、高温を避けて保管しましょう

薬は湿気や光、熱によって影響を受けやすいものです。品質や薬の成分が変わってしまったり、薬の分解する速度が速くなったりします。直射日光が当たらないなるべく涼しい室内で保管しましょう。

子どもの手の届かないところに保管しましょう

すぐに手の届かない場所（高いところ等）に保管して下さい。子どもの目を引くようなお菓子の缶などには保管しないよう注意しましょう。

誤飲事故は、親が家事で忙しい午前8時～10時、午後6～8時に多発しているため、特に注意が必要になります。親が、食後に服用しようと準備していた薬を子どもが飲んでしまうケースもあり、油断はできません。



他の容器への入れ替えはやめましょう

薬を他の容器に入れ替えると、何の薬か分からなくなったり、どうやって飲むものか分からなくなってしまうです。

遮光や防湿などその薬の性質に応じた加工包装をしていることがあります。パッケージから取り出してバラバラにしたり、別の瓶に入れ替えたりするのはやめましょう。(病院や薬局で服用時間ごと1回分ずつに調剤している時は、パッケージから取り出しても問題がないことが確認されている場合です。)



薬以外のものと区別して保管しましょう

薬を他のものと一緒に保管していると、間違えて飲んでしまう可能性があるため危険です。特に農薬や殺虫剤など、間違えて飲むと大変危険です。また、薬は個人ごとにとりまとめておくと、誤飲の防止に繋がります。



薬の外箱や袋、説明書などは使い切るまで保管しましょう

薬の外箱や袋、説明書などはすぐに捨てずに、薬を使い切るまで保管しておきましょう。

病院や薬局で渡される薬の説明書、また一般市販薬に付いている添付文書なども一緒に保管しておくといでしょう。病院や薬局で渡される薬は指示が分からなくならないように薬袋に入れて保管しましょう。薬袋には調剤年月日、薬の飲み方、保管方法などの大切な情報が書かれていますし、使用上の注意などがいつでもすぐに確認できます。



使用期限の切れた薬の使用はやめましょう

薬には使用期限があります。市販薬に記載されている使用期限は未開封での期限です。医療機関で処方された薬は処方日数内で飲みきることが原則となります。使用期限内でも、いつもと違う見た目や味だと思ったら、使用を控えて下さい。

薬の剤形に応じた保管方法

散剤・錠剤・カプセル剤

湿度が高くなると水分を吸収して変化をおこしやすいので、密閉できる容器（缶やプラスチック容器など）に乾燥剤と一緒に保管して下さい。特に指示がなければ室温で保管して下さい。冷蔵庫での保管は、とりだした際に室温との差で薬が結露し、かえって湿気を帯びやすくなる場合があるので避けたほうがよいでしょう。

錠剤やカプセル剤を1つずつ切り離しての保管は、“うっかり”包装シートのまま飲んでしまい、のどや食道粘膜を傷つけるなどの思わぬ事故につながるのでやめましょう。（室温：1～30℃）

液剤、シロップ剤

冷蔵庫など冷暗所に保管して下さい。凍結により品質が変化するものがありますので冷凍庫での保管は避けましょう。食品と区別して保管して下さい。品質が悪くなりやすいので、処方日数内で飲み切り、余っていても処分しましょう。計量カップ、薬びんの口は常に清潔を保ちましょう。スポイトは使用後に水ですすいでもしっかり乾燥させないとピンクの酵母が発生することがあるので定期的に交換しましょう。

点眼薬

特に指示がないものは室温で保管します。

「冷所」「10℃以下」などと指示されたものは凍結を避け、冷蔵庫に保管して下さい。「遮光」「光を避けて」と指示のあるものは、遮光袋に入れてあまり光が当たらない所に保管して下さい。

開封後は、特に指示がなければ1ヶ月を目安に使い切りましょう。

坐薬

「直腸の水分を吸収して溶ける」坐剤（例えば、ダイアップ坐剤、テレミンソフト坐剤）は、室温で保管できます。

「体温で溶ける」坐剤（例えば、アンヒバ坐剤、ボルタレンサ

ポなど)は、約34～37℃以上で溶けるため、冷蔵庫で保管して下さい。先の丸みのあるほうを下に向け、立てた状態で保管して下さい。一度溶けてしまった坐剤は、原則として使用しないで下さい。

インスリン製剤

使用前は、2～8℃で保存します。冷蔵庫で保管する場合には、冷気が直接当たる場所は避け、冷蔵庫扉などに保管し、決して凍結させないで下さい。使用中の注入器は室内の涼しい場所に保管します。

37℃～40℃で変性が進むと考えられるので、直射日光の当たるところや車内など高温になる場所を避けます。特に炎天下の車内は50℃以上と高温になるため数時間で変性する可能性があります。持ち運びが必要な時は、乾いたタオルなどで注入器を保護して保冷剤と一緒にして30℃以下になるようにして下さい。(変性すると白濁したり、浮遊物が現れるので確認したときは破棄して新しいものを使用して下さい。)

航空機の貨物室は凍結しやすいので、航空機を利用する際は保冷剤と一緒に手荷物に入れて下さい。また、寒冷地では真冬に病院や薬局から持ち帰る際に、カバンに入れるなど直接外気に触れないよう注意が必要です。



【参考文献】：政府広報オンライン

- ・中外製薬 正しく使う
- ・タケダ健康サイト
- ・病院検索のここカラダ
- ・日本薬剤師会中央薬事センター
- ・これであなたも医の達人
- ・第一三共ヘルスケア くすりと健康の情報局

10月の栄養相談予定 (各店10:00～12:00開催です)

- ・ 1日 (月) 泉店
- ・ 2日 (火) 長町店
- ・ 10日 (水) 玉川店
- ・ 12日 (金) 松陽台店
- ・ 16日 (火) 上杉店
- ・ 19日 (金) 松島店
- ・ 22日 (月) 古川店
- ・ 25日 (木) 船岡店
- ・ 31日 (水) 若林店